



ウラン探鉱 ウラン濃縮技術の開発

ウラン探鉱

1. 事業整理

残存する海外のウラン権益の処分に係る業務を行った。

旧鉱区の原状修復（残留物撤去等）として、マルガロック地区の現地作業を完了した。

カナダ法人及びオーストラリア法人の清算準備を行った。

（東濃地科学センター）

ウラン濃縮技術の開発

1. 原型プラント

第一運転単位（DOP 1）は2001年2月に、原料の供給を終了し、窒素ガスを封入し維持している（第二運転単位（DOP 2）については、1999年11月に、窒素ガスを封入）。

回収ウラン製品の輸送容器への詰め替えについては継続実施している。

る。

濃縮工学施設においては、滞留ウラン除去試験を実施した集合型遠心機（DOP 2型遠心機）の分解調査を2001年5月から開始し、遠心機内部の状態の調査を行い8月に終了した。

2. 滞留ウラン回収技術開発

濃縮機器やプラント内に滞留しているウランを回収することを目的とする滞留ウラン回収技術開発については、フッ化ガス製造設備の設置工事を2001年6月に終了し、現在運転の準備を進めてい

3. 研究開発課題評価

2001年6月～9月に実施したウラン濃縮技術開発に関する事後評価の実施結果を公表（9月28日）した。

（人形：環境保全技術開発部）